

# 食と放射線に関するアンケート調査

福島県消費者団体連絡協議会

田崎由子

平成25年2月1日

# 調査の目的と内容

## 【調査の目的】

- 東日本大震災後の生活が一変、県民の心境・現状を知るため調査した。

## 【調査内容】

- 対象：会員及び県内市町村の一般消費者
- 方法：アンケート記入
- 期間：平成24年7月～9月
- 項目：質問9項及びご意見



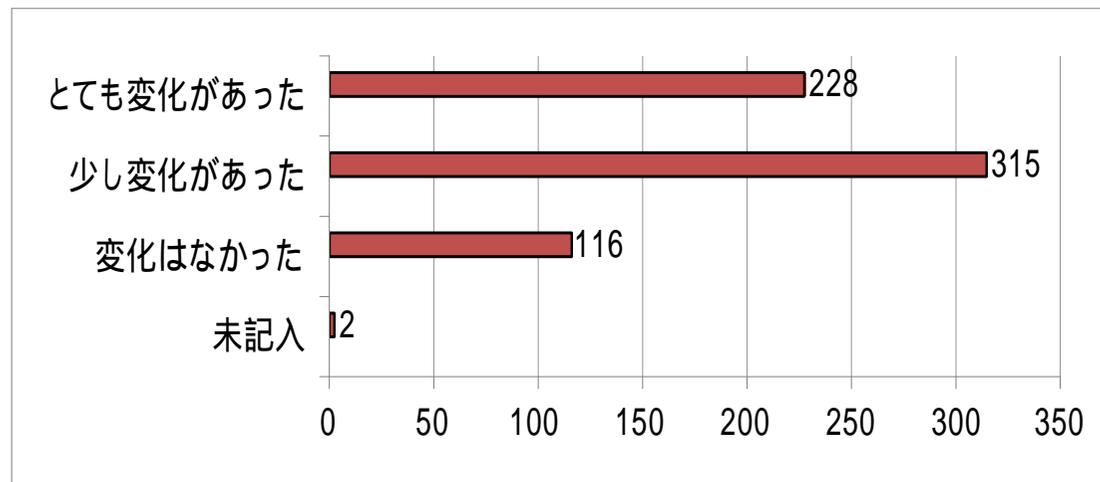
ごちそうふくしま満喫フェア2012

# 調査結果

- 回答者 → 661人
- 郡山市(142人)はじめ35市町村。
- 男性 → 108人、女性 → 553人
- 60歳代が多く164人、25%。次に70歳代・126人・19%。50歳代・116人・17%。
- 今回の特徴は若年層の回答も多かったこと。
  - 30歳代で93人、14%。
  - 10歳代から30歳代で全体の約2割。

# 質問1 「東日本大震災後、食生活の変化 はありましたか？」

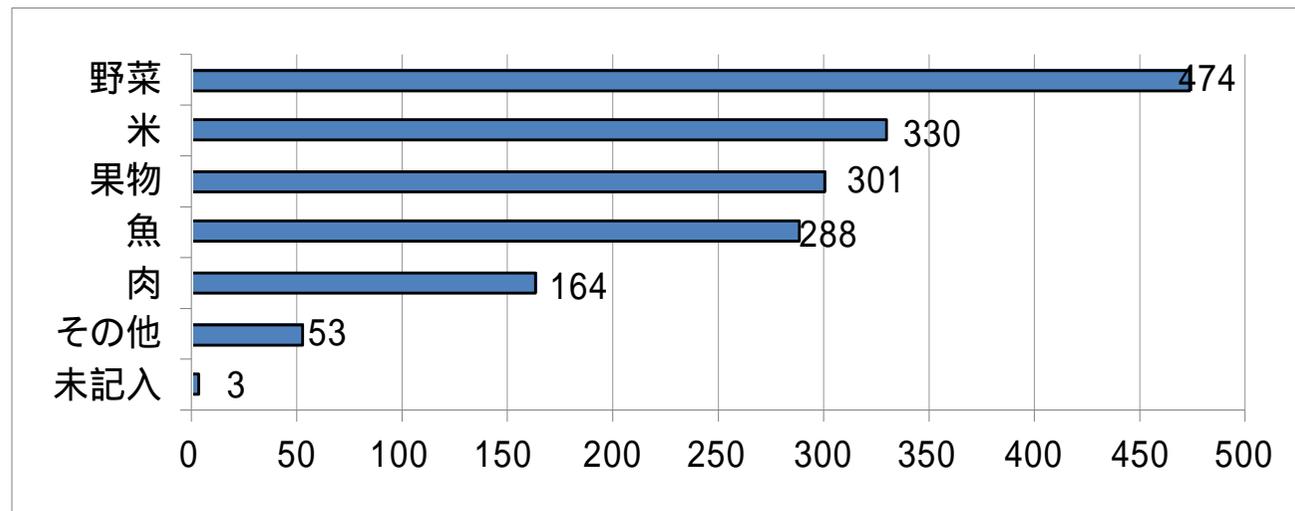
- とても変化があった、少し変化があった  
543人、全体の82%
- 食生活の変化は無かった  
116人（半数は会津地方の人）



## 質問2 「どのような変化でしたか？」

(複数回答)

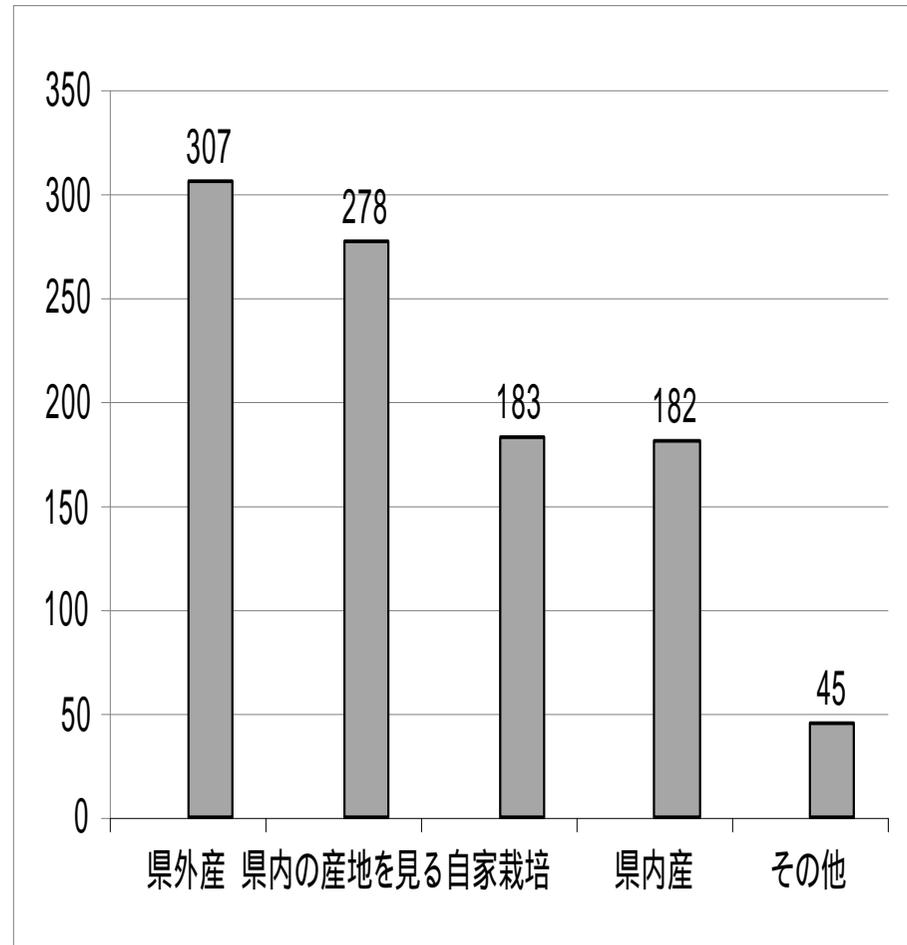
- 野菜が一番多く、次に米、果物、魚、肉の順。
- 例えば野菜は県外産や外国産を買うようになった、以前より食べなくなった。
- その他は水を買うようになった。



# 質問3 「現在の食材についてお聞きします」

(複数回答)

- 一番多かったのは、**県外産を買う、307人**。
- 次は**県内の産地を見て買う、278人**。  
→放射線量の低い地域の食材を求めているのがうかがえる。
- 全体としては、**県内の食材を食べている方が多い**。

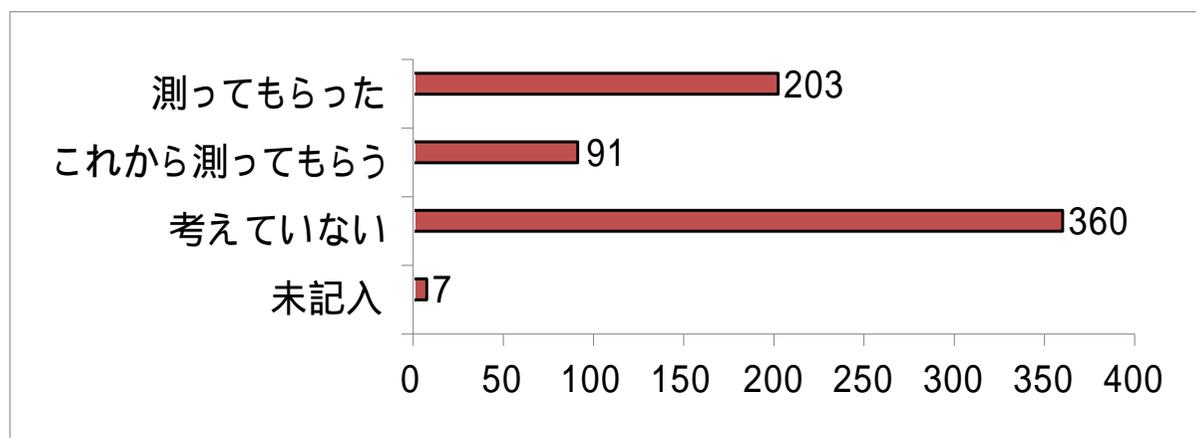


## 質問4 「食品の放射線検査済は信頼できますか？」

- 信頼できる・少し信頼できるは全体の4分の3。  
概ね信頼しているようです。
- あまり信頼できない・全く信頼できないは、約4分の1。  
検査に対する不信感もあるようです。

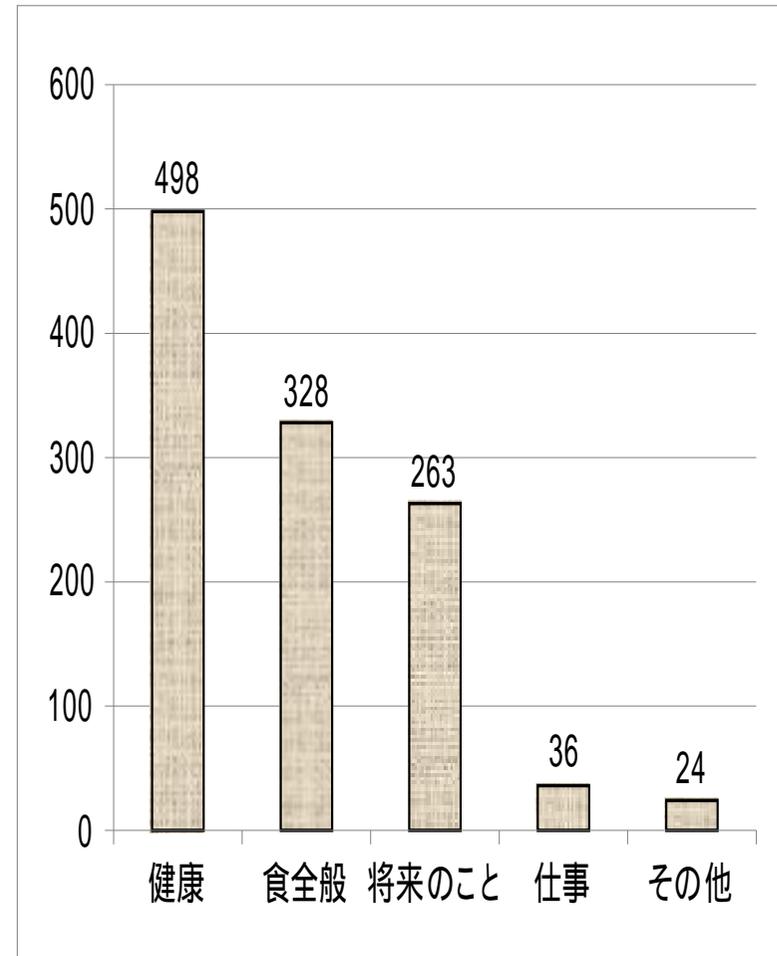
## 質問5 「食品の放射線量を測ってもらったことがありますか？」

- 測ってもらった方は、203人・約31%
- これから測ってもらう方は、91人・約14%
- 考えていない方は、360人・約54%
- 検査に1kg準備することや自家栽培に限られているので、この点を考慮することが求められる。



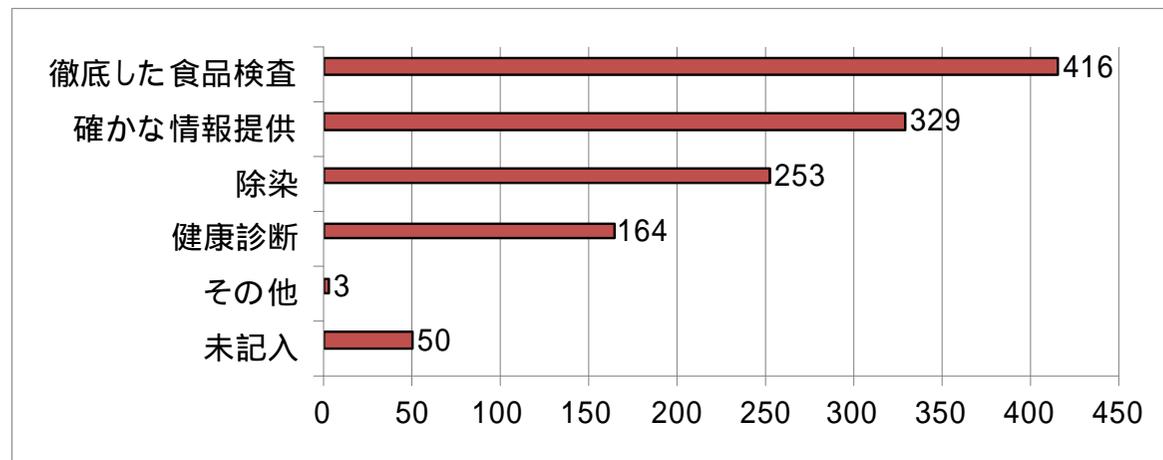
# 質問7 「放射線について生活上の不安は どんなことですか？」

- 不安な方は90%以上。  
(質問6)
- 生活上の不安は、健康  
に関してが一番多く、次  
に食全般、将来のこと、  
仕事の順でした。
- 定期的な健康調査や健  
康診断を望んでいるご  
意見が多かった。



## 質問8 「食全般に関し、どうしてももらえれば安心できますか？」

- 第一位が徹底した食品検査、次に確かな情報提供、除染、健康診断でした。
- 今年は玄米の全袋検査が始まり、検査済シールが貼られ消費者は確認できるようになったことは安心につながる。
- 検査数を多くすることや安全とされる基準値をもっと厳しくして欲しいというご意見も多かった。



# 回答者からのご意見・ご希望

- 食品検査は全品検査ならある程度信頼できる。
- 一般食品の基準値が100ベクレル、99なら安全値となる。100未満でも食品にベクレル表示を！
- いろいろな情報が入ってくるが、どれを信用して良いか分からない。低線量でも安心と言われるが…。
- 健康診断を定期的に！ 食品検査をもっと厳しく！

# アンケート調査から

- 福島県内でも地域によって違いがある。
- 不安に思っていることは、食だけではない。健康や将来のことも大きい。
- 市町村で測定する量は1kgのため、もっと少量でも測れる体制を！
- 玄米以外でも検査の量を増やし速やかに公表してほしい。風評被害が減ることを期待する。
- 通常健康診断と共に希望者全員の甲状腺検査やホールボディ検査による内部被曝検査を！
- 子どもがいる家庭への支援と県民への情報提供や相談窓口の充実を！